

外来で気づいたこと

診療をしていると、様々な質問があります。今回は、そんな質問について考えてみましょう。

まず、始めは「先生、のどが赤いですか？」です。のどが赤いというのは、のどのどこが赤いということなのか、のどが赤くなる病気の代表には、溶連菌感染症などがあります。溶連菌感染症の診断の根拠のひとつがのどの赤さです。もちろん発熱を伴うカゼでも、のどの赤みがみられます。赤くなるのは咽頭や扁桃と呼ばれる場所で、発熱以外に痛みを伴うのが普通です。鼻水や咳だけで、熱でないカゼの多くは、のどが赤くならないのが普通です。また、ポリオの予防接種で一度に100人以上の赤ちゃんを診察します。症状がなくても、のどの赤いことがあります。かなり個人差がある感じですが、せつかく接種に来たのに、のどが赤いだけで、元気があり症状もないお子さんの接種を中止するわけにはいきません。熱があっても、嘔吐下痢症や尿路感染

症では、のどは赤くなりません。しかし、お母さん達は鼻水だけや下痢をして熱があるときも「のどが赤いのですか？」と聞いてきます。これには医師の責任もあるのです。どうしてのどが赤くないかを説明することには、手間がかかりました。昔から医師の言葉の「のどが赤い」は決まり文句で、時間がかからないばかりか、不思議に患者さん

も意味も分からず安心してしまっています。小生はなるべくのどが赤いという言葉を使わないようにし、ちゃんと説明を心がけています。

同じような疑問に「のどが腫れている」というものもあります。のどが腫れるとは、いつたいどこが腫れるのでしょうか。扁桃炎で扁桃が腫れることはあります。しかし、扁桃の大きさには、個人差があるだけでなく年齢によっても大きさが変わります。扁桃は赤ちゃんの時には小さく、次第に大きくなり小学校の高学年でもっとも大きくなり、大人に

なるにつれてまた小さくなります。「のどが腫れている」も決まり文句で、言われると納得していたかも知れません。しかし、のどの赤さや扁桃の大きさにも個人差があります。色や大きさを覚えていなければ、本当は異常かどうかの区別は出来ませんが、医者も患者さん全員ののどの色や扁桃の大きさを覚えていることは不可能です。のどの赤いことや腫れていることは、大きな問題ではありません。このような言葉や言い回しに惑わされなくて、もう少し医学に忠実に考えることも大切かもしれません。

もう一つ、お風呂に入ると赤いブツブツがたくさん出てきます」と言われます。どう考えたらいいのでしょうか。そういう場合には皮膚に軽い湿疹がみられます。冬になると皮膚が乾燥しやすくなり、刺激や汚れによつて軽い湿疹が出ることは珍しくはありません。軽く治療が必要ない湿疹も、お風呂に入つて血の巡りが良くなるとはつきり赤く目立ってしまいます。話は変わりますが、頬の色には個人差があります。お風呂に入つて頬が赤くなつたからと心配する必要はないし、そのばかばかしさも皆さんはおわかり

でしょう。同じような例えですが、冷たいプールに入つて唇が紫になつたから病気だと思ふ人はいないはずですが、評価は普通のときにすればいいのです。わざわざ温めたり冷やしたりして、色の変化を心配する必要は無いはずですよ。

医学の様々な領域で、誤解されているところがあります。医学というものを、なるべく客観的に見ることによつて、少しでも心配を少なくすることも必要でしょう。

ナビゲーター

小児科専門医

川村 和久

仙台市在住



医療法人社団かわむらこどもクリニック医院長。日本の小児科サイトを運営する、言わずと知れた小児科専門医。「お母さん達の心配・不安の解消」を理念に、日々の診療にあたった。宮城県小児科医会理事。2001年には医師として大変名誉のある日本小児科学会バネリストとして選ばれた。

AERA(アエラ)臨時増刊号 日本初! かかりつけ医を探すガイド「日本の家庭医 08」(7月5日号)の町のお医者さん1435人の中で紹介される。

<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>